令和5年度　とやま新時代創造創造プロジェクト学習推進事業

実施報告書 【学校課題実践校用】

学校番号	45
学校名	富山県立富山高等支援学校

学校の現状と課題	本校は、軽度知的障害のある生徒を対象とし、卒業後の一般企業等への就職を目指して、「働く力」や「生活する力」の育成に取り組んでいる。生徒の自己理解を重視しながら、実習を中心としたカリキュラムや家庭と連携した保健指導、生徒会によるルールやマナー遵守の意識向上などの包括的な取組により、就労に向けた技術や自立意識の向上、生活習慣における自己管理の理解に効果を上げてきている。しかし、社会経験の乏しさや自己理解の不足から、自己肯定感や自己有用感がなかなか高まらない生徒も見受けられる。また、社会生活のルールや情報モラルなどを自覚し、一人一人が責任感をもって、正しい行動選択する力に課題がみられる。 　そこで、本校では、昨年度から「ICT環境の整備とICTを活用した授業改善について」を研究主題として取り組んでいる。生徒の学習や生活上の困難を軽減し、生徒の主体的な学びの実現、情報活用能力の育成を図るために、ICT機器をどのように活用するかについて、互見授業を実施し、授業改善を行ったり、情報を共有したりして、研修を深めてきた。今年度は、さらに、生徒の主体的な学びを促進するようにどのようにICT機器を活用できるか授業研究を進めている。また、利用しやすい環境の整備や、セキュリティ体制、ルール作りに取り組んでいる。
テーマ（特色）	社会的・職業的自立を目指して ～主体的な課題発見と課題解決力の育成～
設定した「テーマ」の達成状況	・外部の専門家等からの作業学習に関する助言や技術指導により、生徒は自らの作業技術の課題を発見し、解決に向け取り組み、専門的な技術を習得することができた。また、教員は、技術指導について学び、その後の指導に活かした。 ・作業学習や保健指導、生徒会活動等、全ての学校生活を通して、生徒が自己理解を深め自己管理能力を高める支援の在り方や、計画的・系統的な学習計画の在り方について教職員間で情報を共有し、効果的な指導を行うよう努めた。 ・生徒が、より意欲的に取り組み、主体的に深く学べるように、ICT機器をどのように活用すればよいかなどを、互見授業を行って授業研究し、改善を行った。 ・外部講師を招き、生徒とのより良い関わり方や身体の使い方に関する実態把握と支援方法などについて研修し、指導の工夫や改善を行った。
実施内容 （具体的に記入する）	①「私の夢かなえま表」を活用した、個別面談の企画・実施、達成度と課題の共有 ・生徒自身が作業学習で評価する到達度チェック表である「私の夢かなえま表」の評価内容について、作業担当教員が個別に面談しながら、適切に助言できるようにした。担任は、生徒の「私の夢かなえま表」を活用し、学期ごとに振り返りをした。全教員が各担当生徒の課題とその解決に向けた方向性を共有し、指導できるように努めた。 ・生徒の自己理解や実行機能の向上への支援について、図書を参考にするなどして各教員が研修した。 ②社会的・職業的自立を目指した指導の在り方等についての外部の専門家による研修の企画と実施 ・作業学習において、外部講師を招き、環境、福祉、食品加工、木材加工の各分野の専門的な知識・技能を学ぶ研修会を実施した。 ・卒業間近の3年生を対象に、社会人としての身だしなみ等を身に付けるための講義とワークショップを実施した。 ③社会的自立と就労継続につながる課題発見、課題解決能力を高める授業研究 ・各教科で、生徒の探究的な活動を意図したICTを活用した互見授業を行い、教科等の枠を越えて互見した。授業の前後にはグループで授業研究を行い、授業改善を図った。全教員がICTを活用した授業改善の取組について報告した。 ④自己理解を深め、自己管理能力を高める保健指導と生徒会活動の継続と推進 ・保健指導では、昨年度から継続し、毎月テーマを決めて自分の生活を見直し、自ら改善できるようにした。 ・生徒会を主体として、社会自立への主体的な態度を養うために、ウェルビーイングの視点で学校をより良くするためのアイデアを生徒自らが考え、実践できるようにした。 ⑤教員の資質向上のための専門家による研修の企画と実施 ・生徒とのより良い関わり方や、身体の使い方に関する実態把握と支援方法などについて、学ぶ研修会を実施した。
取組による成果 （プロジェクト学習推進の観点から）	①働く力を意識した生徒の自己評価である「私の夢かなえま表」を活用して、学期ごとに個別面談を行うことで、生徒は自らの課題に気付くことができた。担任や学年の教員とも共有し、それぞれの課題を解決するために、自分事として方策を考えて取り組むようにすることで、生徒の主体性が育ってきている。 ②専門家からの講義や、実習で直接アドバイスを受けることにより、基礎となる作業スキルの獲得と合わせて、うまくいかなかったことやもっと上達したかった事柄について、話し合いながら、試したり工夫したりして学ぶことができた。 ③互見授業を行ったことで、様々な教科の生徒の学びの様子が共有でき、授業をデザインする際の参考とすることができた。また、今後、円滑な就労と職場定着を目的にVR教材が取り入れられる予定だが、そのための、VR教育に関する教員研修を行うこともできた。 ④保健指導を継続したことで、生徒の意識がさらに向上し、家庭との連携もさらに深まった。生徒会活動では、生徒は自ら学校をより良くするためのマナーアップや自分アップに向けた改善案を考え、主体的に実践することができた。 ⑤専門家に、精神医学の観点から、人間の発達やライフサイクルを踏まえて、どのような思いで生徒と関わるとよいのかを学ぶことができた。また、作業療法、理学療法の観点から、生徒の作業動作に関する実態把握の方法やより良い支援方法について学ぶことができた。
対象者（学年・人数など）	全教員、全生徒（＊は作業班、＊＊は3学年を示す）

実施実績		
	4月	第1回研究推進委員会（研究方針の確認）
	5月	校内での研修についての共通理解
	6月	県内外部講師を招いての研修会（作業学習について）＊
	7月	公開授業・授業研究 個別面談
	8月	第2回研究推進委員会（研究経過の確認）
	9月	県内外部講師を招いての研修会（作業学習について）＊
	10月	公開授業・授業研究
	11月	県内外部講師を招いての研修会（メンタルヘルスについて） 県内外部講師を招いての研修会（作業学習について）＊
	12月	県内外部講師を招いての研修会（作業学習について）＊ 個別面談
	1月	県内外部講師を招いての研修会（作業学習について）＊ 県内外部講師を招いての研修会（作業学習について）＊
	2月	県内外部講師を招いての研修会（作業学習について）＊ 県内外部講師を招いての研修会（作業学習について）＊ 県内外部講師を招いての研修会（作業学習について）＊ 県内外部講師を招いての研修会（身だしなみにについて）＊＊ 個別面談
	3月	県内外部講師を招いての研修会（身体の使い方について） 第3回研究推進委員会（研究のまとめ）